

学生からのメッセージ

北方領土返還要求運動次世代育成プロジェクト



池田 菜桜さん
Ikeda Nao

初めに、今回道東へ訪れることが決まった際、中2の時に訪れてから2年後にもう一度訪れられることが、とても嬉しかったのを覚えています。

そして、週末旅ということで、3日間という短い期間でしたが、魅力的な場所や美味しいご飯、とても優しい地元の方々に出会うことができ、本当に忘れることができない3日間になりました！

1回目に訪れた際と重複する場所にも訪れましたが、ほとんどの場所は初めて訪れた場所で、道東の魅力を再発見することもできました。まだまだ知らない場所もたくさんあると思うので、また訪れたいです！観光をしている中で、ふと海の方を見たときに、何度も国後島を見ました。他にも、道東で過ごした時間の中で、意識をしていなくても北方領土問題の一片が見える瞬間がたくさんありました。

北方領土問題を教科の学習で終わらせることもできますが、それではきっとこの北方領土問題がどんどん風化していくと思います。この雑誌を手に取り、道東の観光に興味を持った方や北方領土問題をもっと知りたいと思っ



濱口 拓海さん
Hamaguchi Takumi

北方領土とは、無縁とも思える長崎という地から関わることで嬉しかったです。

私は中学生の時に、一度北海道に行き、北方領土問題について学ぶ青少年・教育指導者現地研修会に参加させていただきました。参加した日は8月9日、これは私が住んでいる長崎に原爆が投下された日、長崎県民にとっても大事な日もありました。私たち長崎から来た中学生一行はその研修会の責任者の方をお願いをして、参加者皆で黙祷をさせていただきました。

私がここで伝えたいことは、8月9日が原爆投下された日ということではありません。北方領土問題、原爆、この二つはある都道府県では式典が行われ、小学生の頃から、その問題に対して深く考えている現状、また、問題解決のため、懸命に動いている人がいる一方、知られていない現状もあるということです。ですが、私がその研修に参加して新しく知ったことや北方領土の現状を友達に伝えたら、どんどん周りの人たちにも広がっていったりと、私が伝えた情報が連鎖し、様々な人に伝わっていったのです。

このように情報を知り、一人一人が周りの人に伝えていくことによって、情報の連鎖ができると思います。今回、私たちが作った雑誌から、道東の美味しい食材であったり、北方領土のことを知ることができると思います。この雑誌から、心に残ったことでもいいので、周りの人に伝えてほしいです。

最後に、今回の雑誌作りを通して、大きな問題に対して、様々な角度からのアプローチにより、解決に向かって動くことができることを学びました。

そして、多くの方のお陰でこの雑誌を作ることが出来ました。ありがとうございます。



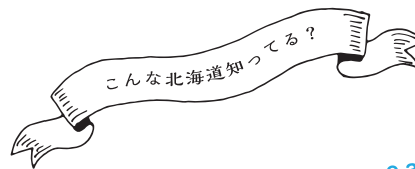
福元 崇晃さん
Fukumoto Takaaki

「北方領土問題」解決に至るまで、両国の政治・外交事情など私たちから遠く離れた出来事次第で左右されるものであると感じてしまうのは仕方のないかもしれません。

しかしながら、まず私たち1人1人が、「日本の島々であるのにも関わらず、元島民を含め私たち日本人が住むことを一切許されない現状」を認識し、危機感を抱くことで、それらが日本国民の総意として政治・外交にしっかり反映されていきます。

故郷であるそれぞれの島に帰ることを許されず、高齢化に伴い亡くなっていかれる元島民の方々も年々増えている現在、そして今後において、この問題解決を担うのはまさに私たち次世代であり、元島民の方々の声を途絶えさせ風化させていくのか、継承し前進させるのか、全ては私たちの今後のアクションに託されています。

この問題を遠いものとするのか、身近なものとするのか、2つの認識の違いで、この問題の将来が大きく変わること皆さんには改めてぜひ知ってほしいと思います。



eastern Hokkaido

学生3人による週末旅行記

道東行ってみた

